

成果報告書（市区町村用）

文化庁活動の地域移行に向けた実証事業

自治体名・担当部署		佐野市教育委員会 教育総務課 教育政策係	
所在地		栃木県佐野市	運営形態 地域移行・団体運営型
本事業に関する市区町村としての取組・考え		令和3年度・4年度に文化庁より「地域部活動推進事業」に佐野市立田沼東中学校が指定され、吹奏楽部で実施した。令和5年度は文化庁「文化庁活動の地域移行に向けた実証事業」を活用し、佐野市立田沼東中学校に加えて、佐野市立あそ野学園義務教育学校の2校の吹奏楽部で実施。地域移行に関しては、課題も山積しているが、生徒の活動機会の確保と教職員の長時間労働解消の観点から取り組めることから実施した。	
運営主体		特定非営利活動法人 ためまアスレチッククラブ（総合型地域スポーツクラブ）	
事業目標		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動顧問の平均時間外勤務時間が減少する。 目標：9月の時間外勤務の平均 70時間以内 (佐野市教職員在校時間調査より) ・生徒の意識調査 「次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと思いますか。」 (1月 生徒アンケート) 目標：「とてもそう思う」・「まあまあ思う」70%以上 ・保護者の意識調査 「次年度も休日の地域クラブ活動として実施してほしいですか。」 (1月 保護者アンケート) 目標：「とてもそう思う」・「まあまあ思う」65%以上 ・教職員の意識調査 「ご自身の負担軽減につながりましたか。」 (1月 教職員アンケート) 目標：「非常に感じる」・「少しは感じる」85%以上 ・実証事業を実施することで、市内全校に拡充させていく方策を考えていく (推進協議会の設置・推進計画の策定) 	
団体・組織等の連携			
運営・協議会等スケジュール		<ul style="list-style-type: none"> 部活動地域移行推進庁内検討委員会の開催 (4/26、5/9、6/26、7/18、8/22、9/25) 部活動地域移行推進協議会の開催 (5/25、8/4、9/14) 部活動地域移行推進事業研修会 (5/11) 地域クラブ活動指導者研修会 (5/21) 市内全生徒・保護者・教職員アンケート調査・集計 (4月下旬) リーフレット発行 (5月・7月・R6.1月) 部活動地域移行推進計画<佐野モデル>策定 (R6.3月) 	
活動種別		吹奏楽部	
活動スケジュール	基本活動日	ひと月に休日の2回程度、1回3時間程度	
	年間	4月…保護者へ説明会、入学式での演奏、5月…活動開始、7月…足利フェスティバル、福祉施設訪問、10月…佐野市学校音楽祭、学校文化祭、12月…児童館での演奏、3月…卒業式での演奏	

活動場所		各学校（佐野市立田沼東中学校・佐野市立あそ野学園義務教育学校）
移動手段	生徒	自校での活動のため、移動なし
	楽器等用具	同上
参加者	学校名、人数等	佐野市立田沼東中学校 2 3 名、佐野市立あそ野学園義務教育学校 2 2 名
	募集方法	学校部活動の吹奏楽部の部員が、そのまま地域吹奏楽クラブ活動へ参加する。（希望制）
指導者	属性、人数等	市内楽器店社員… 1 名
	募集方法	令和 3 年度の文化庁事業を開始するにあたり、拠点校になる中学校から地域において吹奏楽の指導に実績のある候補者を推薦してもらった。推薦された方に運営団体となる「たぬまアスレチッククラブ」に会員登録をしていただき、地域クラブ活動指導者として指導していただいた。
活動費用	指導者謝金等	謝金 1, 500 円 / 1 時間、交通費 37 円 / km
	その他	特になし
活動財源	会費等	保護者負担なし
	その他	市委託金
保険加入等		スポーツ安全保険（公益財団法人スポーツ安全協会）（保護者負担なし） 地域クラブ活動指導者 1 名 1, 850 円 / 人 / 年間 生徒 45 名 800 円 / 人 / 年間
ヒアリング、アンケート等実施 ※集計結果等があれば別紙で提出ください		・部活動地域移行に係るアンケートの実施（5 月：市内全中学校・義務教育学校（後期課程）の生徒（2, 655 人）・保護者（2, 655 人）・教職員（235 人）） ・休日の地域クラブ活動に関するアンケートの実施（栃木県教育委員会）（12 月：実証事業実践 2 校の校長・生徒・保護者・教職員・地域クラブ活動指導者）

○本年度の取組み状況の概要

ア: 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- ・部活動地域移行推進協議会に総括コーディネーター(大学学長)を配置し、国の動向を注視しながら、部活動地域移行推進計画(案)の指導助言を行った。
- ・部活動地域移行コーディネーター(市会計年度任用職員)を配置し、運営団体と中学校の連絡調整を行った。
- ・運営団体において、地域指導者への謝金等の支払い、地域指導者や生徒の保険加入手続等を行う人材を確保し、運営体制を整備した。

イ: 指導者の質の保障・量の確保

- ・市教育委員会主催で顧問と地域クラブ活動指導者の合同研修会(5/11)や地域クラブ活動指導者研修会(5/21)の開催。
- ・指導者確保のため、総合型地域スポーツクラブや市文化協会等と継続的な協議。

ウ: 関係団体・分野との連携強化

- ・部活動地域移行コーディネーターによる運営団体と学校へ定期的な訪問による状況把握。

エ: 面的・広域的な取組

- ・隣接する2中学校で吹奏楽部の活動を休日の月2回程度の活動を地域クラブ活動へ移行し、1校で実施した令和4年度の取組と比較する。
- ・令和8年度に市内全ての中学校(8校)の部活動を、休日の月2回程度、地域クラブ活動へ移行するための方針や内容を記載した、部活動地域移行推進計画「佐野モデル」を策定する。

カ: 参加費用負担の支援等

- ・令和5年度は実証事業のため、地域指導者への謝金や地域指導者及び生徒の保険費用等、地域移行に係るすべての経費を市で負担(国の補助金含む)した。

キ: 活動場所等の確保

- ・活動場所は学校施設とした。

○地域クラブ活動の概要

佐野市立田沼東中学校(地域クラブ活動指導者1名)

- ・指導日数 ※1回の指導時間は3時間程度

5月:1日	6月:1日
7月:1日	9月:1日
10月:1日	12月:1日
1月:1日	

◎指導日数合計 7日

佐野市立あそ野学園義務教育学校(地域クラブ活動指導者1名)

- ・指導日数 ※1回の指導時間は3時間程度

5月:1日	6月:2日
10月:1日	1月:1日

◎指導日数合計 5日

※学校以外での活動も検討したが、楽器の運搬などの負担が大きき実践されなかった。

○本事業による成果

休日の地域クラブ活動に関するアンケート(12月)の結果より

【生徒】「次年度も休日の地域クラブ活動に参加したいと思いますか。」

・目標:「とてもそう思う」「まあまあ思う」70%以上

・結果: 71%(令和4年度 59%、令和3年度 58%)

・成果:「体力・技術が向上している」、「指導がわかりやすい」、「他校の生徒と交流できるので楽しい」と、専門的な知識と技能を有した経験豊富な指導者から指導を受け、部活動に取り組む意欲の向上が感じられる。

【保護者】「次年度も休日の地域クラブ活動として実施してほしいですか。」

・目標:「とてもそう思う」「まあまあ思う」65%以上

・結果: 69%(令和4年度 59%、令和3年度 47%)

・成果:「他校の生徒との交流が増えた」、「子供の意欲が向上した」と地域移行を肯定的に捉えている。

【教職員】「ご自身の負担軽減につながりましたか。」

・目標:「非常に感じる」「少しは感じる」85%以上

・結果: 73%(令和4年度 83%、令和3年度 62%)

・成果:「確実に教員としての時間が増えた」、「生徒は、多くの目で見てもらうことで、自分に合った感覚を掴むことができる」、「休日に個人の予定を組めるようになった」、「連携を取り合う中で、顧問自身の指導力向上につながっている」と地域移行の推進に期待している。

【地域クラブ活動指導者】

・成果:生徒の音楽に対する興味・関心を高めることや今以上に演奏が好きになることを意識した指導を心がけている。生徒の活動への意欲や演奏の技能の向上が感じられている。

○児童・生徒への指導に関する工夫

※顧問と地域指導員の連携や指導方法の共通認識に関する工夫も含めて記入。

・令和4年度の生徒のアンケート結果から、「顧問と地域クラブ活動指導者で連携をとってほしい」という回答が令和3年度から増加したので、令和5年度は、顧問と地域クラブ指導者の合同研修会を実施した。そこで指導方針や活動内容を共通理解したり、年間スケジュールの再確認をした。

・地域クラブ活動へ移行の際には顧問も立ち合い、生徒の活動状況、必要な配慮や留意点の相互理解に努めたり、地域クラブ活動終了後には、顧問と指導者で活動の様子を確認しあったり等、連携の強化をした。

・教員と地域指導者が指導の方針や活動状況について情報を共有し、一貫した指導を心がけることができたので、生徒が戸惑わずに活動に取り組むことができた。

○運営上の工夫

※活動場所に中学校など学校施設を利用している場合の校舎・鍵の管理の現状・工夫も含めて記入

・部活地域移行推進コーディネーター(市会計年度職員で週5日勤務)を配置し、学校・運営団体・地域クラブ活動指導者と連絡及び調整し円滑に実証事業が進めた。

・活動は、学校部活動と同じように校舎にある音楽室で実施したが、施設管理上、校舎の開錠や施錠には教員が立ち会う必要があった。そのため、吹奏楽部以外の運動部を含めて12の部活動を学校部活動と地域部活動の2つのグループに分けて実施し、学校部活動の教員が校舎の開錠や施錠を行える状況を整え、地域部活動の指導者が開錠等に関わらなくても済む状況で活動できた。

・欠席生徒がいた場合の連絡体制を整え、安心して活動ができるように配慮した。具体的には、児童生徒の連絡先を記載したファイルの場所を学校と地域指導者が共有し、必要に応じて使用できるようにした。また、地域指導者が電話をとれない場合を想定し、家庭からの欠席連絡にショートメールを利用するようにした。

・緊急時の対応について、地域クラブ活動指導者研修会を実施し、対応方法を確認した。

・2校での実証事業となるため、佐野市教育委員会から保護者に対して説明会(入学式後と保護者会後)を実施した。

○本事業における実証結果や成果の評価・分析

・実証事業に取り組むことにより、生徒・保護者・教職員の実態及び成果と課題の把握ができ、今後、地域移行を推進させていく基盤となっている。また、課題も明らかになり、解決のために庁内の協議が深まったり、地域の関係団体に協力要請したりすることで、今後、地域移行を拡充していく体制整備の一助となっている。

・実証事業の取組の様子をリーフレットにして保護者に配信したり、ホームページでアンケート結果を公表したりすることで、地域の方々への理解促進につながっている。

・実証事業の成果と課題をもとに、令和6年度・令和7年度における本市の方向性を示す「部活動地域移行推進計画《佐野モデル》」を策定できた。

○現状及び継続的な運営に関する課題

- ・学校部活動と地域クラブ活動の併存
月の休日の2回程度の移行なので、平日を含めると、活動の中心は学校部活動にある。今後も、学校と運営団体及び市教育委員会が連携し、持続可能な体制の構築や環境の整備が必要である。
- ・学校施設の管理、連絡調整等
教職員のアンケート結果から、活動場所となる学校施設の管理や地域クラブ指導者と連絡調整に負担を感じている。今後、スマートロックや学校・保護者・地域クラブ活動指導者をつなぐ通信アプリ導入も検討する。
- ・運営体制の在り方と地域クラブ活動指導者の確保
令和8年度に市内全校に拡充していくには、現在の運営体制では限界となる。そこで、運営団体と実施主体に分けるなど、新たな運営体制の検討と共に、教職員の兼職兼業も含めた地域クラブ指導者の確保が必要である。
- ・運営費の確保
持続可能な地域クラブ活動にしていくために、運営費の一部を保護者に求めることを検討していく。
- ・さらなる広報活動
アンケート結果から、生徒・保護者・教職員のほとんどの設問で地域移行の肯定的な回答を得ている一方で「分からない」と回答している数も一定数いることが把握できた。今後も地域移行の必要性やメリットをリーフレット等で発信していくことが必要である。
- ・学校部活動指導時間の比較
教職員からも地域移行に関して、負担軽減になっているとの回答を得られているが、実際に時間的にどれくらい減少しているかという検証ができていない。これは、令和4年度はまだコロナ渦の影響により学校行事や学校部活動等が削減・短縮されたりで通年の勤務時間となっていなかったため比較できない。また、これまで家庭に持ち帰っていた事務仕事を、地域クラブ活動によって生み出された時間に勤務校で実施しているという場合もある。今後は、時間外勤務という枠ではなく、部活動指導に携わっていた時間という枠で比較できるようにしていく。

○令和6年度以降の学校部活動の地域移行に関する方針・計画

部活地域移行推進計画《佐野モデル》(令和6年3月策定)一部抜粋

【基本目標】

学校と地域との連携・協働により、生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を整備します。

【活動目標】

令和8(2026)年度の本格実施を目指し、佐野市立中学校・義務教育学校(後期課程)のすべての部活動について、休日の活動の半分を地域クラブ活動に移行します。

■生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会の確保を目指します

少子化のため廃部や休部、活動の縮小等の影響を受けずに、スポーツ活動・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保します。

■教員の長時間労働の解消を目指します

部活動指導に係る教員の負担を軽減し、本来の教職員としての業務へ専念できるようにして、学校教育の質の向上にも資する学校における働き方改革を推進します。

さらに、今後の学校部活動の完全な地域移行を見据え、以下のことを目指します。

■部活動の地域移行を核とした地域スポーツ活動・地域文化芸術活動の更なる推進を目指します

ミドル・シニア世代を巻き込んだ学校部活動の地域移行を通して、地域のスポーツ・文化芸術活動を活性化させ、あらゆる世代の市民がスポーツ・文化芸術活動を暮らしに取り込み、豊かで文化的かつ健康的な生活を充実させます。

【計画】

令和6年度:3校(田沼東中、あそ野学園義務教育、葛生義務教育)で休日の部活動地域移行開始

令和7年度:全8校で休日の部活動地域移行の試行実践の開始

令和8年度:全8校で休日の部活動地域移行の本格実践の開始

令和8年度以降は、国や県の指針等を踏まえ、学校部活動を地域クラブ活動に着実に移行する計画に《佐野モデル》を更新していく。

【活動の様子（写真添付）】

